

## 2016年度 小規模多機能ホームみんなんち 事業報告

小規模多機能ホームみんなんち ホーム長 肥田克洋

### 【事業総括】

- ① 要支援、要介護の高齢者が可能な限り住み慣れた自宅および地域で、その人が自分らしく暮らすことができるよう、これまでの通所、訪問、泊まりの組み合わせではなく、小規模多機能型居宅介護として、その特徴を生かして、その時その人にあった「支え方」を提供します。  
⇒利用している人に対しては、その機能を使ってもらおうよう努めました。
- ② 地域密着型サービスとして、地域に理解を深め、信頼関係を築きます。  
⇒行政機関・病院には繋がりが持てるようになってきましたが、近隣病院や他事業所からの紹介・依頼は少なく、信頼関係を築くにはさらに努力が必要です。
- ③ 数値目標に対して：月間介護報酬563万円に対して383万円（69.8%）登録者数23名に対して16名（69.6%）と大幅未達でした。

### 【事業計画（方針）とその評価】

- ① ご本人のニーズ、ご家族のニーズを丁寧に聞き取り、その人らしい生活が続けられるよう、ケアプランを作成します。ケアプランに基づき、一人ひとりに合わせた小規模多機能型居宅介護計画を充実させ、職員間で共有し適切なサービスを提供します。目指すケアの方向性の統一を目指します。また、日常的にカンファレンスを行いながら職員間の気付きを共有しケアを改善していきます。  
⇒計画作成担当者を中心にケアプランを作成しましたが、実際の介護計画に落とししていくためのアセスメントが十分にできず、課題が残りました。職員間での情報の共有化も同様です。
- ② その人がこれまで歩んできた人生を大切に受け止め、最後までその人らしくあり続けられるような支援を目指します。また、ご本人とご家族の思いの違いを受け止め、みんなんちとして適切なケアを提案します。  
⇒ケアプラン作成後、個々の職員が得る情報を加えていくことによって、ご利用者への支援が大きく変わります。そのことの仕組みづくりが不十分でした。  
⇒家事や趣味など、今までその人が行ってきたことを大切にし、日常生活の中での動きもリハビリと考え、積極的に行っていただきます。また心身ともにリフレッシュすることを目指して外出の機会を持つよう計画します。  
⇒生活リハビリの観点からできれば食事の準備等についてご利用者の参加を積極的に進める必要があります。
- ③ できないことに着目するのではなく、できること、できる可能性があることに着目し、ご本人、ご家族、職員ともに前向きな気持ちになれるような支援を行います。  
⇒その人のペースに合わせて「間を我慢」できる気持ちの余裕を持ちたいと思います。
- ④ ケアスタッフとしての専門性を高め、ケアの質の均一化を図るため、マニュアルの整備・見直しを行い研修を計画し実施します。  
⇒マニュアルの整備・見直しは担当を割り振る計画でしたが、少数で実施しました。今後とも整備・見直しは継続していくことが必要です。一方基本の介護技術の研修が行われませんでした。ケアの

質を高め誰でも同じ対応ができる技能を確保することが重要です。

## 【事業実績】

### ① 利用実績

- ・ 月次登録者数：14.6人（計画：18.7人）（新規：9人、終了：12人）
- ・ 一日当たり通い人数：7.9人（計画：12.75人）
- ・ 年間宿泊日数：109日（計画：215日）、宿泊人数：112人（計画318人）
- ・ 訪問回数：日時8.23回、月間：249回
- ・ 平均介護度：2.42

## 【会 議】

- ① 運営会議：月間行事・社内研修等の日程・準備状況確認、職員会議の議題検討等、週間予定表（利用者の通い・訪問・泊り予定確認、職員の勤務日割り当て検討）検討等を行いました。
- ② 職員会議：利用者登録状況、登録見込先、事故報告書・ヒヤリハットで特に再度共有すべきもの行事等の振り返り・次月以降の行事等について毎月第4木曜日に実施しました。
- ③ ケース会議：1回に2名の利用者を対象に、その人の「思い」について検討し、今後のケアの方向性を決めています。毎月第3金曜日に実施しています。
- ④ NS会議：ご利用者の健康管理に関する情報共有について実施しました。
- ⑤ 送迎会議：利用者新規登録の際に送迎時間の決定・既存利用者との時間調整を行いました。
- ⑥ 夜勤会議：ホーム長・常勤職員・夜勤担当で夜勤帯でのケアの統一に向け情報共有しました。

## 【委員会】

- ① 防災対策委員会：防災訓練実施後に主に火災・大地震を想定しまず目前の災害からの避難の方法について検討しました。現状の施設が使えなくなった時のことや、災害避難所となった時の体制等については検討できませんでした。
- ② 危機管理委員会：事故発生後・ヒヤリハット事例のあった日か翌日に、事故原因・状況を把握して、今後の防止策を検討するよう努めました。ご家族・地域等からの苦情・意見に対しても対応策を全職員に連絡するようにしました。
- ③ ボランティア・行事担当委員会：地域交流活動の検討・ボランティアの受け入れについてはホーム長が担当しました。

## 【研修実績】

### 年間内部研修実績

4月 疾病	10月 認知症ケア
5月 認知症	11月 緊急時対応
6月 食中毒対策	12月 事故発生予防・再発防止等、安全対策
7月 接遇・マナー	1月 感染症予防
8月 非常災害時の対応	2月 虐待防止・身体拘束排除
9月 倫理及び法令順	3月 プライバシー保

### 【年間行事】

4月 お花見	10月 フラワーランドへ外出
5月 端午の節句	11月 紅葉狩り
6月 外食	12月 クリスマス会
7月 七夕	1月 新年会
8月 夏祭り	2月 節分
9月 外食	3月 ひな祭り

### 【家族会】

- ① 今年度は4回の家族会を開催しました。相互に意見交換を行い、より良いサービス提供を目指します。また、ご家族同士の交流の機会とし、連携が図れるよう支援します。家族会の内容をより充実させ、学習会などの開催を企画します。

⇒定期的に開催しましたが家族の出席率が伸びませんでした。しかし毎回出席されるご家族については、日々のご利用者の様子や家での様子などを相互にすることができました。家族会の企画内容をさらに充実化していくことが課題です。

### 【運営推進会議】

- ① 隔月で運営推進会議を開催しました。事業所運営やサービス内容を報告し、多方面から意見をいただき、地域に必要とされるサービス提供を目指します。運営推進会議の内容の充実を図ります。また、地域に根差していけるように積極的に交流の機会をつくります。

⇒参加メンバーから多種の情報をいただけてきましたが、事業所活動に十分生かし切れていません。地域密着型サービス事業所として今後様々な活動を広げていくことが課題です。

### 【地域との連携】

- ① ケアセンター世田谷内の他事業所との連携や交流の機会を積極的につくります。また、ケアセンター世田谷として地域に向けた発信ができる企画を検討します。

⇒秋祭りを一緒に開催し、みんなちの企画にグループホームも参加してもらったり、小学校・保育園の交流会も一緒にできました。ケアセンター世田谷として地域に向けた発信には至りませんでした。